

地域医療振興協会
市立恵那病院

恵那地域後期研修（シニア）プログラム

“地域医療のすすめ”

—家庭医・総合診療医育成コース—

市立恵那病院総合診療部

はじめに

大学医局支配の医師派遣制度は崩れ、今や医療機関独自の研修プログラムを
発表する事ができるようになりました。

恵那市は、市立恵那病院を中心とした地域医療の枠組みを構築すべく、そこ
で中心となって活動する総合診療医・家庭医の養成に力を入れています。既存
の臓器専門医療の枠にはまらない、現場のニーズに応えることのできる医師を
養成する事が崩壊した地域医療を再構築する上で必要と思っています。

その現場のニーズに応えることのできる医師というのが、家庭医・総合診療
医と考えます。恵那地域は地域医療を担う家庭医・総合診療医を育てるに最適
の地域です。家庭医・総合診療医が行政と住民とによる三位一体の地域医療を
実践することが重要です。

これから地域医療を目指そうとされている先生方、未だ迷っておられる先生
方のためのプログラムを作成しました。我々は家庭医・総合診療医で地域医療
を実践しようとする医師を地域医療医と呼んでいます。このプログラムは地域
医療専門医育成プログラムです。どうですか？一緒に地域医療やりましょ
う！！ 集え！！恵那へ！！来れ恵那へ！！
そしてようこそ恵那へ！！

地域医療振興協会 市立恵那病院

管理者 細江 雅彦

恵那地域後期研修（シニア）プログラムおよび再研修プログラム

1. プログラムの目的と特徴

【目的】初期研修修了者、もしくは新たに総合医・家庭医を目指す再研修者を対象に家庭医療学会の後期研修に則ったプログラムを提供する。そして後期研修終了後、地域ニーズに応えることができ、地域住民に信頼される保健・医療・福祉サービスを提供できるように、求められる役割に応じて協調、変容でき、あらゆる問題に対応できる能力を楽しく身につけることを目的とする。

【特徴】基幹病院である市立恵那病院での研修を中心に、**全国の特徴ある施設での研修**を提供することができる。専門研修についても市立恵那病院および関連病院にて継続研修ができる。

a. 恵那市と地域住民、そして市立恵那病院が作るプログラム

この研修プログラムは、市立恵那病院単独のプログラムではなく、行政である恵那市と地域住民、そして市立恵那病院が企画したプログラムである。恵那市という自治体が医師養成に大変な関心を持っており、まさに地域医療の真髄である医療人と地域住民と行政の三位一体という形態が形成されており、自治体の受け身体質であった従来の形から真に自治体が求める医療を実践する医師を養成しようとするところにある。

b. 衛星診療所での診療にも従事

市内の恵那市立診療所や協会関連診療所での診療にも従事し、病院では仕事比率の低い保健予防および介護福祉活動に参加することができる。在宅診療も実践していただく。病院と診療所を往き来して、ある時は家庭医、ある時は病院総合診療医、そして専門医をするという医師としてのキャリアアップを形成する事ができる。市立恵那病院の常勤医のほとんどは、診療所や地域の小病院での診療経験を有している。従ってプライマリケアの重要性を認識しており、その真髄を教授できる。また将来像を身をもって示すことのできるロールモデルともなりえる。

c. 専門医と総合医が共同で作業できる最適な環境

総病床数199床という小病院での研修であることから、科の枠を超えた総

合的な研修が可能である。この規模の病院は、専門医と総合医が共同で作業できる最適な環境である。消化器内科、外科、循環器、呼吸器、乳腺、運動器、リハビリ、緩和医療、老年医学の専門医・指導医による指導を気軽に直接受けることができる。臓器横断的な勉強が可能でプライマリケア医としてキャリアアップできる研修環境である。研修中にサブスペシャリティーを身に着けたい場合、それぞれ興味のある専門分野へ進むことも可能である。

d. 救急に関する研修も充実

救急においては先ず診るという態度で接する事で、地域の住民の主治医でありますよという事をアピールできる。救急専門医のレビューを受ける事ができる。三次救急、臓器専門医療に従事したい場合、地域医療振興協会内施設、協会外施設、近隣大学付属病院での（6ヶ月ー）1年間の研修も受け入れ側の定員数と給与面での話がまとまれば可能。※日光、沖縄、奈良 etc にある診療所での研修も可能。

e. 高齢者医療のエキスパートになれる

高齢者が多い地域での診療である事から、高齢者医療のエキスパートとしての地位を確立できる。そして老年医学の中心的テーマである包括的評価とケアについて学ぶ事ができるとともに看取りの医学も学ぶ事のできる環境である。

f. 地域医療医を育てる！！

地域医療はベッドを持たない診療所と大病院だけでは成り立たない。市立恵那病院クラスの中小病院の役割は、臓器専門医療と家庭医療のそれぞれ両極にある施設の中間的位置にあり、ほとんどの健康問題を地域内で完結するためには、一般健康問題に対応できる一般医＝総合診療医が市立恵那病院クラスには必要である。その医師を育成する研修の場として恵那地域はうってつけの研修場である。以上、家庭医として継続診療に、病院総合診療医として入院管理に、臓器専門医療医、救急医療医として専門医療に従事する事のできる研修プログラムである。そして言わば生物心理社会モデル、臨床疫学モデル、生活介護モデル、不確実モデルなるものをこの研修を通して学び、そしてそれらをまとめあげられる能力を養える研修とし、それを専門とする医師＝地域医療医（仮称）を作り上げたいと我々は考えている。

2. プログラム責任者及び指導者

・プログラム責任者	市立恵那病院管理者	細江雅彦
・副プログラム責任者	兼指導者 市立恵那病院総合診療部	山田誠史
	指導者 救急総合診療部	徳山秀樹
	指導者 東京北社会保険病院	名郷直樹

市立恵那病院基本理念：「私たちは、地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い、信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。」を掲げ、(1) チーム医療の展開、(2) 地域包括医療への貢献、(3) 信頼される病院作りを目指しています。特徴は、行政、地域住民、医療人が一緒になり、地域住民が求める医師作りをすることです。保健予防活動の場では市民も明日の地域医療を担う医師作りに参加するという特徴を持っています。是非、当地域で研修をされた医師は、家庭医として、病院総合診療医として、そして地域医療の専門医として自然に地域住民と向き合える医師になってほしいです。

3. 研修到達目標

地域住民の様々な健康問題を解決するため、プライマリケアの基本的な診療技術を身につけるとともに、保健・医療・介護・福祉の知識を理解し、地域の中で医療が担う役割について認識する。また、要時専門研修も行い、*subspecialty* を持った *generalist* も目指すことができる。良き専門医は良き総合診療医でなければならない。逆に、良き総合診療医は良き専門医に成れる。名医を目指すのではなく、患者の話に耳を傾けることのできる良医を目指す。

(1) 診療

- へき地診療所で外来診療を自立しておこなうことができる。
 - 市立恵那病院にて総合診療科医として外来診療ができる。
 - 協会関連協力施設、協会外協力施設での外来診療ができる。
 - 関連診療所での外来診療が自立してできる（恵那市内国保診療所、国保武儀、国保上之保、国保伊吹診療所）。
 - 高齢者が多いことから高齢者へのアプローチ手法、例えば高齢者包括的評価法を駆使しての診療技術を磨くことができる。

- チーム医療の実践ができる。
- 地域病院で救急当直を自立しておこなうことができる。
 - 市立恵那病院で救急当直が自立してできる。
 - 短期支援施設での救急外来・当直ができる。
- 地域で求められる検査(上部消化管内視鏡、腹部・心臓超音波)を自立しておこなうことができる。
 - 市立恵那病院にて消化器科、循環器科医師から指導を受けることができる。
 - 協力型施設(病院、診療所)研修中に週半日程度の技術研修を行うことができる。
- 地域施設で病棟管理を自立しておこなうことができる。
 - 市立恵那病院にて総合診療科病棟主治医として患者治療・管理ができる。
 - 協力型施設(病院)にて病棟主治医として患者治療・管理ができる。
- へき地診療所・地域病院で短期の代診業務ができる。
 - 研修短期の診療所代診、病院応援ができる。(小笠原、神津島、山中温泉医療センター、青森県東通、日光、沖縄、その他プロジェクト研修 etc)。
- EBM のプロセスに則って診療ができる。
 - 市立恵那病院総合診療科にて指導を受けることができる。
 - Ub-point を利用して診療の参考にすることができる。
 - テレビ会議にて上級医、同僚の意見を聞き、診療に役立てることができる。
- 患者、家族、地域を視点としたアプローチができる。
 - 高齢者の看取りの医学を地域包括的アプローチ、生態学的アプローチ、倫理的アプローチなどの面から考えることができるようにする。

(2) 地域包括ケア：病病、病診連携、介護保険施設との連携で住民の健康管理、ケアを継続的に行うことを習得する。

- 地域の保健・福祉・介護の資源を適切にコーディネートして、地域医療を担うチームの一員として医療を提供できる。
- 在宅医療を計画・実施・評価できる。
- 職員と良好な人間関係が構築できる。
- 地域保健について、評価・支援・実践することができる。出前講座の担当、院内糖尿病教室の講師を担当する。参加者から評価を受け話す技術を磨く。地域住民と交流する機会を持ち、パートナーシップを築く事ができ

る。

- 福祉・介護分野と連携ができる知識・行動力を身につける。
- その地域の地域診断ができる。
- 病診連携パスに則って他の医療機関と適切に連携ができる。

(3) マネージメント

- 医療経済の視点を持って病院運営、診療所経営ができる。
- 職員と良好な人間関係が構築できる。
- 患者および医療従事者の安全管理の方策を身につけ、危機管理にリーダーとして参画できる。
- 地域医療保健の確保のため、緊急の支援に適切に答える事ができる

(4) 生涯学習・教育・リサーチ

- 自己評価・同僚評価・外部評価を受け入れ、継続的学習をする事ができる
- 地域で求められる事を後輩・他職種にわかりやすく教える事ができる
- **Clinical Epidemiology・Biostatistics・Health-Social Science** の基本について初期研修医に教育できる。
- 地域の問題点を適切に把握し、問題解決のために具体的な研究・事業計画を立てる事ができる。
- 地域を舞台とした研究に参加し、発表・投稿する。
- カンファレンス：臨床上の疑問をどのように解決したか報告し討議する。
- 隣の中津川市民病院では **CPC** が開催されるためそれに参加する。
- 病理解剖が取れた症例については、**CPC** を行い、報告書をまとめる。
- テレビ会議（時間外のため自由参加）

EBM スタイルジャーナルクラブ：EBM のステップに基づく抄読会
へき地医療カンファレンス：へき地医療全般について取り扱うカンファレンス

(5) 私生活

- 地域での生活を楽しむ。
- 医療を継続して提供するために、安定した生活を営む事ができる。
- 自己のストレスマネージメントができる。

4. 研修施設

基幹病院 : 市立恵那病院 恵那市大井町 2 7 2 5 番地
内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、老年科
外科、消化器外科、乳腺外科、大腸肛門外科、
呼吸器外科、小児科、婦人科（非常勤）、
整形外科、眼科、耳鼻科（非常勤）、
リハビリテーション科、放射線科（遠隔診断）、
総合診療科、救急総合診療科、etc

協会関連協力施設 : 揖斐北西部地域医療センター

: 岐阜へき地支援センター（シテーターワ-4 3 診療所）

: 関市国保武儀診療所、国保上之保診療所

: 協会内の研修病院、地域病院、診療所で
短期研修も可能（地域包括ケアセンターいぶき etc）

: 恵那市内の医療機関（国保岩村診療所（透析施設あり）、国保山岡診療所、国保上矢作病院）

協会外協力施設 : 名古屋大学医学部附属病院総合診療部

: 岐阜大学医学部附属病院総合診療部 etc

: その他希望施設（例：福井県立病院救急部）があれば、交渉します。

研修関連施設

通所介護施設ほほ恵み 恵那市大井町 2 7 2 5

上矢作保健センター 恵那市上矢作 3 1 1 1 番地 2

特別養護老人ホーム福寿苑 恵那市上矢作町下 7 2 3 番地 1

5. 研修期間

研修期間は、3年間コースと4年間コースとし、プログラム内容も期間に合わせて柔軟な対応で計画する。協会後期研修医は3年間のうち「プロジェクト」という関連施設での研修が計6～9ヶ月間含まれる。協会後期研修医は3年間終了の後、京大臨床研究修士、OHSU（Oregon Health Science University）、岐阜大学附属病院総合診療部、名大附属病院総合診療部、その

他希望施設での研修が可能です（ただし期間は最長3ヶ月まで：これはプロジェクト応援への報償です。協会以外の後期研修医でもプロジェクトに参加していただければ対象とする）。4年間コースの場合、2年目以降に基幹病院外での研修を認める（その時の研修医の人数によるとともに研修先の病院の定員枠に入れればとする）。期間は6ヶ月～1年間。

6. 研修方法並びにスケジュール：具体例を示す。臨機応変に対応可。

協会派遣総合医養成研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
シニア 1年目	基幹病院にて救急総合診療 / 内科一般 / 当直（含小児科・外科系）											
シニア 2年目	基幹病院にて救急総合診療 / 内科一般 / 外科・整形外科 or 小児科 / 当直（含小児科・外科系） *協会外施設での短期研修									プロジェクト		
シニア 3年目	恵那市内の医療機関と関連施設、そして診療所での研修（診療所は1 6ヶ月間：ハーフデイバックあり） *協会外施設での短期研修									プロジェクト		
研修後	専門医研修（*協会外施設への斡旋）・常勤医としての採用の用意あり											

※ 初年度にはプロジェクト参加せず、2年目以降に6ヶ月まとめてプロジェクト参加も可能。

※ 4年コースの研修医は、他施設での研修は2年目以降とする。

一般総合医養成研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
シニア 1年目	基幹病院にて救急総合診療 / 内科一般 / 当直 (含小児科・外科系)											
シニア 2年目	基幹病院にて救急総合診療 / 内科一般 / 外科・整形外科 or 小児科 / 当直 (含小児科・外科系) *協会外施設での短期研修											
シニア 3年目	恵那市内の医療機関と関連施設、そして診療所での研修 (診療所は1 6ヶ月間: ハーフデイバックあり) *協会外施設での短期研修											
研修後	専門医研修 (*協会外施設への斡旋)・常勤医としての採用の用意あり											

※ シニア4年目以降：京都大学臨床研修修士課程、名古屋大学医学部付属病院総合診療部、岐阜大学医学部付属病院総合診療部 etc での研修も考慮。ただし、(3ヶ月) 1年単位です。どの施設も定員がありますから応募して受け入れられればという条件付きです。

※ OHSU (Oregon Health Science University) での研修も交渉次第で1～3ヶ月期間で可能。

※ 内科教育指定病院にて初期研修2年間を履修したものは、そこからの派遣で当院1年間の研修で内科認定受験資格と獲得できます。

※ このプログラム終了後、日本家庭医療学会認定医がとれます。

※ 内科認定医取得後、所定の経験年数後に消化器病学会、老年医学会の専門医が取得できます。

市立恵那病院研修予定表 (例： N 先生)

		(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
シニア1 年目	午前	初診外来 (上級医 と)	朝抄読会 内視鏡検 査(上級医 と)	病棟診療	病棟診療	再診外来	交代出勤
	午後	病棟診療	病棟診療	総合診療 外来	外来・検査	NST 勉強 会・回診・ 検査	
	夕方	外来レビ ュー・内科 外科症例 検討会	外来レビ ュー	外来レビ ュー・内科 症例検討 会	外来レビ ュー・救急 症例検討 会・講演会	医局会、雑 誌抄読会	
		(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
シニア2 年目	午前	初診外来 (上級医 と)	朝抄読会 内視鏡検 査(上級医 と)	整形外科 診療	外来・検 査・小児科	再診外来	交代出勤
	午後	病棟診療	外来・検査	整形外 科・小児科	病棟診療	NST 勉強 会・回診・ 検査	
	夕方	外来レビ ュー・内科 外科症例 検討会	外来レビ ュー	外来レビ ュー・内科 症例検討 会	外来レビ ュー・救急 症例検討 会・講演会	医局会、雑 誌抄読会	

		(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
シニア3 年目	午前	診療所外 来・透析	診療所外 来	診療所外 来・透析	診療所外 来	恵那病院 にて再診 外来	交代出勤
	午後	恵那病院 にて検 査・外来	診療所(小 児科)・往 診 etc	恵那病院 にて整形 外科診療	診療所(小 児科)・通 所	NST 勉強 会・回診・ 検査	
	夕方	診療所レ ビュー・内 科外科症 例検討会	診療所レ ビュー	内科症例 検討会	診療所レ ビュー・救 急症例検 討会・講演 会	医局会、雑 誌抄読会	

耳鼻科は火曜日と木曜日午前中

婦人科は第2・4土曜日

【必修課題】

- ・ 6ヶ月間の診療所の外来診療
- ・ 訪問診療、往診を含む在宅医療
- ・ 市立恵那病院の病棟診療
- ・ 市立恵那病院での小児科研修3ヶ月
- ・ 地域における健康増進・疾病予防活動
- ・ 診療所・病院のマネージメント
- ・ ヘルス・サービス・リサーチ
- ・ 災害時の支援活動、一次救命処置（BLS）、二次救命処置（ALS）

- ・ 在宅に関連する検査、治療の手技（携帯エコー、胃瘻造設、褥瘡処置など）
- ・ 初期研修医、看護師をはじめ、他職種、地域住民などへの教育

※ 特に病院で研修をすべき内容

- ・ 集中治療を含めた重症患者のケア
- ・ 薬物乱用についてのスクリーニングおよび対処法（主にアルコール、覚醒剤など）
- ・ 産業医学
- ・ 栄養について（NST）

※ 特に診療所で研修をすべき内容

- ・ 地域包括型ケア（研修期間のうち、地域の健康レベルをアップさせる課題に取り組む）
- ・ ヘルスプロモーション、予防医学
- ・ 災害医療（地域での災害対策を調査、協議）
- ・ ライフサイクルに基づいた対応
- ・ 診療所での検査、業務改善活動

※ 選択課題

- ・ 産婦人科・精神科などの他科研修
- ・ 他の家庭医療学機関などでの研修
- ・ 地域診断や高齢者総合評価などのリサーチ
- ・ BLS、ALSなどのCPRトレーニング。日本救急学会ICLS認定コースへの参加

7. 地域医療振興協会 市立恵那病院 後期研修医募集要項 下記参照

<http://www.jadecom.or.jp/cgi/navi/topics/disp.cgi?m=d&id=24>

身分	正職員
年俸額	3年目 5,500,000円／4年目 6,000,000円／5年目 6,800,000円
諸手当	宿日直手当、通勤手当、家族手当、住宅手当、緊急診療手当 等
休日、休暇	日曜、祝日、年末年始、年次休暇、特別休暇（夏期休暇等） 土曜（月2回）
加入保険	健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険、医師賠償保険
宿舎	あり
その他	学会参加の参加費・交通費・宿泊費等保障 赴任旅費を支給

7. 修了認定

地域医療振興協会認定地域医療専門医取得

日本家庭医療学会認定医取得

問い合わせ 社団法人 地域医療振興協会 市立恵那病院
 管理者 細江雅彦
 〒509-7201 恵那市大井町2725
 ☎0573-26-2121 FAX:0573-26-5279
 e-mail: 細江雅彦 ma-hosoe@enat.org
 Home page <http://www.enahp.enat.jp>

スタッフ紹介

内科総合診療・老年科	管理者	細江雅彦	（1981年自治医大卒）
内科総合診療・呼吸器科	副院長	近藤芳正	（1976年日本医大卒）
内科総合診療・循環器科	副院長	松野由紀彦	（1982年自治医大卒）

内科総合診療・消化器科	内科部長	改田 哲	(1984年自治医大卒)
内科総合診療・救急	救急総合診療部長	徳山秀樹	(1992年宮崎医科大卒)
内科総合診療・消化器科	総合診療部長	山田誠史	(1993年自治医大卒)
内科総合診療	医員	西原恵司	(2000年名古屋市立大卒)
内科総合診療	医員	高橋優子	(2004年日本医大卒)
内科総合診療	医員	佐藤 誠	(2005年和歌山医大卒)
外科・乳腺外科	院長	浅野雅嘉	(1980年自治医大卒・ 岐阜大学腫瘍外科)
外科・消化器外科	部長	西科琢雄	(1993年岐阜大卒・ 岐阜大学腫瘍外科)
外科・消化器外科	手術部長	太田博彰	(1997年岐阜大卒・ 岐阜大学腫瘍外科)
小児科	部長	服部 誠	(1984年佐賀医大卒・ 名古屋市立大小児科)
整形外科兼リハビリ科	部長	伊達和人	(1985年自治医大卒・ 岐阜大学整形外科)
整形外科兼リハビリ科	医長	寺島宏明	(1998年自治医大卒・ 岐阜大学整形外科)
眼科	医長	水野大介	(2000年昭和医大卒・ 名古屋市立大眼科)

放射線科：遠隔画像診断（東京北社会保険病院放射線科）

婦人科（岐阜大学）：非常勤医師

耳鼻咽喉科（藤田保健衛生大）：非常勤医師